

## 第2回 高田松原地区震災復興祈念公園構想会議の開催結果概要

### 陸前高田市民フォーラム

# 高田松原の公園について語る

～未来につなげる復興のシンボルを目指して～

- 1 日時 平成24年9月2日(日) 13:30～15:40
- 2 場所 陸前高田市役所4号棟第6会議室
- 3 参加者
  - ・ 高田松原地区震災復興祈念公園構想会議委員(9名)
  - ・ 一般参加者 約80名
  - ・ 行政関係者 約20名(陸前高田市:戸羽市長、久保田副市長、岩手県:県土整備部 小野寺道路都市担当技監 外)
- 4 内容
  - 1) あいさつ(陸前高田市 戸羽市長)
  - 2) 話題提供(事務局から取組経緯等を説明)
  - 3) 意見交換(座長:中井検裕 東京工業大学大学院教授)

## 5 主な意見

### ○市民

- ・ 三陸は津波の常襲地域であるが、過去の津波被害の際に被災遺構を残してこなかったため、伝えるべきが伝わらなかったのではないかと。「物言わぬ語り部」として、市内に残る被災建物を災害遺構として保存すべき。
- ・ 石碑などでは簡単に記憶が風化してしまう。語り部が現物を見せながら話し、伝えることが重要。
- ・ 松原と古川沼を元通りに再生し、被災前の見慣れた美しい景観を取り戻したい。
- ・ 市民にも来訪者にも「開かれた公園」にするためには、市民参加の場をどれだけ重ねていけるかが重要。このような場、機会をもっと多く設け、時間をかけて市民の意見を聞いてほしい。
- ・ 高田は堆積層で地盤が悪い地域のため、公園も街も、もっと山側に整備した方がよい。
- ・ 防災マップや避難場所などについてしっかりと検証してほしい。誰かの責任を問うというのではなく、自然の力の前では人間がつくる



<陸前高田市 戸羽市長あいさつ>



ものはこんなにもろい、ということを後世に伝える必要がある。

#### ○委員(地元代表)

- ・ 「いのち」というキーワードを踏まえれば、被災した構造物を何故残すのか、あるいは何故壊すのかにつながっていくのではないか。
- ・ 地域経済、雇用の問題の悪化が深刻。継続的に交流人口、定住人口の増加に資する公園づくりを進め、市民生活の豊かさにつながる公園にして欲しい。
- ・ 世界が陸前高田を注目している。100年、1000年先を見据えて、今後も市民が公園について話し合える場を設けていくことが必要。
- ・ 公園利用者の避難場所をつくり、安全確保を図る必要がある。



<公園構想会議委員>

#### ○委員(有識者)

- ・ 公園づくりに市民がどれだけ関わったかが、将来の公園管理の市民参加にもつながっていく。公園構想会議以外にも意見を聴く何らかのチャンネルについて道筋をつけておきたい。
- ・ 復興が進むにつれて失われる景観もあるが、慣れ親しんだ景色や記憶を再現することは重要。
- ・ 松原の苗を市民が植え、継続的に育てていくことは、「いのちをつなげる」という意味で非常に重要。
- ・ 公園は地域の生業再生の資源の一つ。公園の中もしくは併設して、教育・研修、伝承のための施設が考えられる。ただし、継続しうる堅実な性質の施設にすることが重要。
- ・ 広島原爆ドームでは、100年も経過していないのに周辺でマンション開発の話があった。良識に守られていたものが失われるような意識の風化が見られる。当地でも、少なくとも100年後にどう伝えられるかが求めている。皆で知恵を出し、難しいハードルを越えていかなければ、あっという間に忘れられてしまう場所になる。
- ・ 公園を一気に完成させることもあるだろうが、100年くらいかけてつくっていく、育てていくという考えもあるのではないか。
- ・ 負の遺産として災害遺構を残すことも必要ではないか。コンセプトを明確にして、既成の公園という概念を取り払い、ごった煮のような施設を寄せ集めた公園にならぬようにする必要がある。



以上